エコニュース さって

第 35 号
平成 22 年 12 月 6 日
幸手市市民環境会議
（さって市民環境ネット）
TEL48-0331

昨年に続き行幸湖に 14 基の浮島を進水！

川の再生体験イベント「浮きウキフェスタ 22」

10 月 24 日（日）天候にも恵まれ、第 2 回目となる埼玉県主催の「浮きウキフェスタ 22」が、権現堂公園にて開催されました。行幸湖に接する、幸手市・久喜市（今年から栗橋町は合併して久喜市になりました）・五霞町が後援となり、会場には浮島つくりのほか、カヌー・ドラゴンボート体験、テントを張って行幸湖写真展、水質検査体験、池の魚水族館、豚汁のサービスなどを、ステージではハンドベルの演奏やピンキッシュの出演なども。フェスタを盛り上げる協力団体も 31 を数えました。来場者・参加者は主催者発表で 2,800 名となり、昨年の数 1,200 名を大きく越えて大盛況でした。

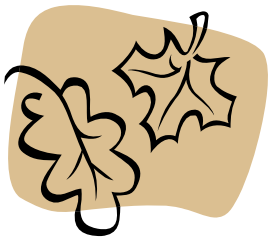
浮島つくりには、スタッフと体験参加者を含めて約 300 名、地元の幸手市・久喜市・五霞町の小学生やボーイスカウト・ガールスカウトのメンバーや栗橋北彩高校の生徒、幸手中央ロータリークラブ、桜堤保存会、彩の国いきがい大学、エコクラブかぞ、キューピー、コスモ石油など去年も参加してくれた団体のメンバーの他、今年は新しく獨協大学の学生や損保ジャパン地球クラブのメンバーなども参加。

今年は去年と違い、午前中に 14 基の浮島をいっぺんにつくりました。14 基のイカダを一列に並べ、300 人あまりが一斉にとりかかる浮島つくりの風景は圧巻でした。昼食をはさんで午後はイカダの進水式。竹のレールの上を滑らせて進水地点に運ばれ、次々と勢いよく湖面に突入するイカダは、昨年に比べ湖面の水位が低かったこともあり、これまた迫力満点でした。堤斜面の竹のレールは、イカダの勢いで何基目からはつぶれてしまいましたが、それでもイカダは勢いよく水面に突入、大きな水柱をあげると見物人から大歓声が。バランス悪く斜面を滑る間に回転してしまうイカダは、水面に着く前に止まってしまうというハプニングもあり、そんなときは見物人の間からこれまた大きなため息が…。「（滑り落ちる）イカダに乗りたい～」と目を輝かせる子どもの参加者もいました。

さて、来年からどうするか。県で主催した「浮きウキフェスタ」は今年で終了、県は行幸湖に関する今後の計画を持っていないようです。5 年前から、毎年 2 基ほどのイカダを作って進めてきたさって市民環境ネットの「浮島つくりプロジェクト」は、県を巻き込んでの去年 14 基、今年 14 基のイカダ作りで、イベントとしては最高の盛り上がりをみせました。しかし、このピークを今後維持していくことは、予算面から考えてとても考えられません。だが、このイベントに結集したさまざまな団体、つまり地方自治体、NPO、企業、ボランティア団体、などなどが結集したたぐいまれなる「協働形態」は、ある意味われわれが作り上げた財産と考えられます。規模は小さくとも、この財産を来年につなげ「浮島プロジェクト」を存続していく方法はないか、これが今後見つけていくべきテーマと思われます。

参加してくれた皆さん、サポートしてくれたさちネットの皆さん、ありがとうございました。また、お疲れさまでした。来年はまた「浮島つくり」の新しい展開が待っている、そう願っています。（久保田）

第 59 回腐葉土つくりの会



新し腐葉土作製床が４基設置される！

9 月 19 日（日）8 時、桜泉園にて 18 名の会員が参集して、4 基の床の設置工事を行いました。

桜泉園内の粗大ごみ等の倉庫の移転・拡張工事に伴い、6 月、4 基の床（廃材の鉄パイプと戸板）を撤去し、廃材を保管しておきましたが、新年度の腐葉土作製を前にして、これらの廃材を使って再度、4 基の床の設置工事を行いました。

冒頭、本田会長から、次回の腐葉土つくりの会は落ち葉集めといも掘りを行うので、会員の参加はもとより一般参加者も募集する旨の話がありました。また、10 月 24 日（日）の「浮きウキフェスタ 22（浮島つくり）（権現堂公園）、さらに 11 月 6 日（土）の市民健康福祉まつりへの参加、11 月 10 日（水）の第 1 回市民環境講座（ごみ分別の始まり）開催の案内があり、参加を促されました。

作業は、最初、女性群は桜泉園内の落ち葉集めを担当し、男性群は、床の設置工事を担当しました。幅８ｍ、奥行き約３..4 ｍに４基の床を作るよう計り、自称若くて力もちが中心になって、先ず木杭で穴を開け、その穴に鉄パイプ製の杭を打ち込み、戸板で柵を作っていきました。並木さんからしっかりした戸板を頂いたので、前よりも立派な床ができました（並木さん有難うございました）。

早速、既に環境課に集めて頂いた落ち葉と今回集めた落ち葉を仕込みました。　作業は、１時間半ほどで終了し、次回のいも掘りを楽しみに散会しました。　　（澤村）

第３０回幸手市健康福祉まつり

平成２２年１１月６日（土）、午前１０時～午後３時までウエルス幸手において３２の協力団体と協力者による「第３０回幸手市健康福祉まつり」が、盛大に開催され、１０００人弱のお客様が遊びに来てくれました。

各ボランティア団体の展示や販売や工作そして講演会、またステージでは、ソーラン踊り、フラダンス、クラリネット演奏、スコップ三味線演奏、市内施設による合唱そして幸手商業高校演劇部の皆さんによるちんどんパフォーマンスなど、来ているお客様を楽しませてくれました。

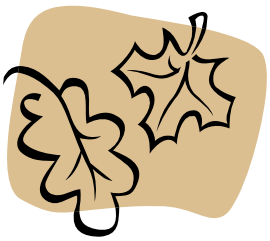
我が「さって市民環境ネット」のブースに於いても腐葉土つくりコーナー、浮島つくりコーナー、中川探険コーナー、エコライフ DAY コーナー、菜の花プロジェクトコーナー、市民環境講座コーナーにおいてそれぞれ展示をしました。

腐葉土コーナーでは、腐葉土の実物を展示し、浮島つくりコーナーでは、権現堂公園で行われ、NHK のニュースにもなった「浮きうきフェスタの様子やホウネンエビ観察」の映像もながしました。中川探険では、中川のジオラマを展示し、環境講座では、小学校で行いました出前環境講座の様子を紹介しました。そして、今年も各コーナーで勉強をして頂く「クイズラリー」を行い、３１６人の方が問題用紙を持っていかれ、参加回答者：２９０人、不参加（未提出）：２６人と、今年も我がブースを盛り上げていただきました。今回の問題は、少し難しかったかな？　今年は、ご夫婦で来て頂いた方も多かったように思います。

２階第一会議室で行いました「映写会」の作品は、アニメを１本、チャップリンの無声映画を１本、由利さんや水野さんたちの懐かしい俳優が出た作品を１本と盛り沢山です。環境作品は、今回途中まででやめました。上映作品をもう少し考えたほうがよかったかな？しかし、スタンプラリーのみの方も入れると９０人近くも来ていただきました。

ご夫婦や子供連れのお爺さんやお婆さんたちに、もっと遊びに来ていただくものを考えなくてはと思っております。　　（小谷）

第60回腐葉土つくりの会



今年は猛暑続きで大きいサツマイモが大収穫！

待ちに待ったイモ掘りを10月11日（祭）に行いました。

予定した10月10日（日）は台風の余波で朝まで雨が降り、１日延期して11日９時から、少しぬかっていましたが、秋晴れの下で行いました。急な日程変更でしかも体育の日で都合の悪い人も多かったのですが、子供２人含めて28人参集しました。

最初につる切りをした後、男性がスコップやマンノでイモを掘り上げ、女性はイモから土を落とし、イモ運びを行いました。今年は植えた直後に雨が降ったため、昨年みたいに枯れることなくほとんどが根付き、しかも猛暑とつる返しを３回行ったので、イモがみな驚く程大きく育っていました。イモ掘りは力作業です。10本畝がありましたが、７本の畝を掘ったところで皆さんが汗をかき息があがっていましたので３本の畝を残してイモ掘り作業を終わることにしました。それでも、都合の悪かった人、地主、新井さんも含めて40人へ、１人当たり８kg以上頒布したと思います。

10月30日（土）に残りの３畝のイモ掘りを予定しましたが、またも10月末になるというのに台風がきて雨で11月３日（水）文化の日に延期して、19人参集して行いました。

10月11日に収穫したものよりも全体的に大きくなっているように感じました。今回も、１人当たり５kg位頒布しました。

最後に、会長から11月６日（土）市民健康福祉祭りへの環境コーナー展示会への見学のお願いと次回は11月21日（日）９時からの開催案内をして散会しました。

なお、終了後、有志で環境課に集めていただいた落ち葉と乾燥汚泥土を仕込みました。

（澤村）

第61回腐葉土つくりの会

野球場周辺の落ち葉集めと仕込み、今年度、最初の切り返し！

平成17年11月19日から始まった「腐葉土つくり」も新たな会員７名を迎えて６年目の活動になりました。

11月21日（日）９時から、晴れの下で23名が集まり、最初に会長の挨拶後、新会員の自己紹介、グループで会員との５分ほどの懇話（アイスブレーク）を行った後、先ず、新会員と女性群の落ち葉集めグループと落ち葉の仕込み、１切り返しの男性群グループの２グループに分かれて作業を行いました。

落ち葉は野球場周辺を中心に行い、枝や針葉樹の葉が混入しないように注意しながら集め、小型トラックで輸送しました。仕込み・切り返しは、９月仕込んだ２基を切り返しとともに１基にまとめ来年の２月に熟成するようにしました。残りの２基には環境課に集めて頂いた落ち葉とともに新たに集めた落ち葉を仕込みました。また、新会員の皆さんには、自分たちで集めた落ち葉を使って、事務局から仕込み方法として「20～30㎝の落ち葉を積んで踏み込んだ上に、米ぬかと乾燥汚泥土（注）を適量撒いて水を散布する、一連の作業の繰り返しを行う。」との説明を受け、体験して貰いました。

なお、散会後、事務局と数人の有志で来年度の種マメ用に残した完熟した奥マメを枝からもぎ取り作業を行いました。

（澤村）

（注）**乾燥汚泥土**
幸手市内のし尿や浄化槽汚泥を 500～800℃の高温で蒸し焼きにしたもので、衛生的で含有成分が窒素5.7%、リン2.7%、カリ0.3%で落ち葉の腐葉促進源になり、直接、畑に撒いても土壌の改善に役立ちます。ただ、有害な物質は含まれていませんが、異臭がするので、畑に直接撒く場合は、土をかけて下さい。

第１回市民環境講座　　11月10日（水）

江戸のまちにタイムスリップ　そのエコライフの実態や如何に

環境課の大沢課長から、開講の挨拶と幸手市の「さってごみ報告」（資料）について、お話と協力要請があった後、長年エコリサイクル連絡会でゴミ削減、グリーンコンシューマー運動を続けている、宮田事務局長の講演がありました。ユーモアたっぷりのお話の後、質問や意見交換もにぎやかな講演会でした。（本田）

「ごみの分別！～江戸時代から見てみると～」をテーマに環境講座を行いました。

長い戦国時代が終わり江戸時代になると生活の安定と人口の増加に伴い、ごみ処理や水不足が問題になって行きました。外国から来た人から見ると、江戸時代の江戸という町は非常に綺麗に見えたそうです。

それには幾つかの理由があり、①下水を川に流さなかったことなども挙げられますが、②ゴミ処理が適切に行われていた為に、町中にゴミが散乱していなかったという事実も挙げられるでしょう。

当時の町の人たちの生活を（衣）・（食）・（住）に分け現在の３Ｒに例え、生産から廃棄処分、水の大切さ、ごみ処理システムの始まりを中心に説明しました。

ごみ処理システムの始まりは1655年に、ごみは永代島に捨てるようにと定められ、現在のポイ捨て条例や不法投棄の処罰にあたいすることも定め江戸中のごみは収集されて永代島に運ばれました。

江戸市中のごみ収集の手順は以下の通りです。

まず表店では各家の裏へ、裏店では共同の掃き溜め（現在のゴミステーションのようなもの）を設置、それらを町単位でゴミを収集する**『大芥溜め』おおごみため**という場所へ運び、そこから船着場（突抜）へ運び、そこから永代島（後には越中島）へ運ばれていました。ただし当時の資源は徹底的に再利用されていたため、余り量は多くなく、それらも再利用が難しいものや、火事によって出た灰などのゴミで、人口の割りには排出されるゴミの量は非常に少ないものがありました。当時の回収業としては排泄物、生ごみ、古着、鍋や釜などの金属製品を専門に修理する「鋳かけ屋」（いかけや）、古紙回収業の紙屑買い木桶や樽を竹などで締め直す「たが屋」、割れた瀬戸物を焼き継ぐ職人、磨り減った下駄の歯入れの職人、刃物の研ぎ屋、ちょうちんのはりかえ職人などがありました。

江戸時代の主要リサイクルＴＯＰ３は、①下肥（しもごえ）②古着③灰ですが、その他、今では廃棄物とも言われる物のほとんどが、江戸の町では原料として使われていたのです。

自分が快適！自分が良ければ！はもう止めませんか？　循環型社会の本当の意味に戻って、自然を基本とした循環システムをもう一度模索する機会になれば…。

最後に美しい地球上の水辺の風景で締めくくり、講座は終了しました。

会場アンケートでは昭和30年頃までは江戸時代と同じような生活をしていた事、グリーンコンシューマーの心得を実践して生活環境に活かしたいと、少しの見直しで環境は変えられるし、守れる事を確認したとの声が大半でした。

貴重な時間を頂き感謝しています。報告　宮田尚美

来年の予定

１月１８日（火）第２回環境講座「ごみの分別の始まり」小学校高学年編
市立上高野小学校　６年生

２月２６日（土）第３回環境講座　中央公民館
（仮題）みんなの力で、なの花の油を！（その2）
今年もナタネの刈り取りをやりましょう